



# 図書館だより

2011.8  
No. 16

長崎県立大学佐世保校附属図書館

〒858-8580 佐世保市川下町123  
TEL 0956-47-2191(代表) <http://sun.ac.jp/lib>

## 20年前を振り返って 清 浦 義 廣

(理事長)

今から20年前、1991年は私にとって忘れられない出来事が二つ重なった年である。

一つは新たな名前で長崎県立大学がスタートしたことである。前身の長崎県立国際経済大学は経済学部のみの単科大学で、学長が短期間で交代するという異常な状態が続いていた。その頃、県議会では特に地元の議員から学部増設の強い要求が続いており、当時、県総務部長だった私は学部の増設に奔走した。福岡大学の教授だった鈴木武先生に学長就任を依頼し、新設することになった流通学科へ教授陣を招聘した。そして大学の名称を変更し、やっと新たな県立大学のスタートを切ることができた年だった。流通学科は全国でも珍しく公立大学では初めての試みで不安もあった。蓋を開けて見ると、入学志願者も多く達成感を感じたことを覚えている。そして5年後には、単科大学としては大規模な新図書館が落成し、広く県民に開放されるようになった。

この年もう一つ忘れられない出来事は、雲仙普賢岳噴火災害である。先日、噴火災害から20周年のテレビ番組を見た。見事に復興した現在の島原市の様子と懐かしい人達の姿を見て、当時の高田勇知事を先頭に県職員一丸となって連日頑張ったことが思い出された。

特に当時九州大学島原地震火山観測所の太田一也所長（現在同大名誉教授）のことは忘れられない。その前年の11月17日に雲仙普賢岳から煙が上がったとき、誰もが驚き、「まさか普賢岳が噴火するとは」というのが正直



な気持ちであった。しかし太田先生はそれより以前の橋湾の群発地震からこの噴火を予想していたそうである。普賢岳に溶岩がせり出してからは毎日のようにヘリコプターで観測し、連日その様子を地元に伝えた。先生は島原市出身で、市長を始め市民にも信頼が厚かった。県も全く未知の領域だった噴火災害について詳細に至るまで先生から熱心に教えていただいた。そしてそれが災害復興の礎となつたのである。先生の長年の研究の成果が見事に発揮され、地域の為に大いに役立てられたことは本当に素晴らしいことだと感じ入った次第である。

県立大学が20年前に新たにスタートしたときと現在とを比較すると大学を巡る環境は大きく変わった。少子化の中、選ばれる大学でなければ生き残れなくなっている。国立大学に較べると公立大学は地域の関心や期待が大きい。生き残るためにには、如何に質の高い教育をし、社会貢献できる人材を育てう

るかにかかっている。大学の存在が地域に及ぼす影響は大なるものであり、存続させるための努力を怠がねばならない。

雲仙普賢岳噴火の際は、地道な研究調査を続けていた太田先生に助けられた。火山や地震などの研究調査は国立大学だから出来たと

いう側面もあるが、一方で公立大学は地域の人達の関心や期待がより大きいとも感じる。我が県立大学からも地域の要となる人材を今後とも輩出したいものである。そのことが県立大学の存在意義につながる重要なポイントになるはずだと思うのである。

## 私の図書館の利用術 一本と人との出会いの場ー

### 長瀬幸一

(経済学科・講師)

今回、図書館だよりに、貴重なスペースを頂くことになった。本好きの私としては、お気に入りの小説についてでも、熱く語りたいところだ。しかし、「多少なりとも、皆さんの役に立ちたい」、そんな思いが強くなり、今回は、新入生セミナーで触れた「図書館の利用法」についてお話ししようと思う。すこし説教じみてしまうが、お許しいただけるとありがたい。

#### ①辞書・辞典のコレクションを利用しない手はない！

四月に、本学に赴任して、真っ先に確認したのが、図書館の辞典・辞書の内容だった。本好きの皆さんでも、大学図書館の辞書の棚には、あまり近寄ることがないだろう。ネット世代の皆さんにとって、分厚い辞典よりも Wikipediaを利用するほうが常識になっているかもしれない。しかし、ぜひ一度、大学図書館の大辞典を手に取ってほしい。

こういった大辞典の良さというのは、単語の表面的な意味ばかりではなく、語源などの多岐にわたる情報が記されていて、言葉の原点にまでたどり着くことができる点にある。私のような歴史を学ぶ人間はもちろんだが、「研究の入り口」に立っている皆さんにも、

言葉の真の意味まで追究してほしい。ちなみに、本学図書館には、日本語の百科辞典として、小学館、平凡社、ブリタニカ各社の辞典が、ドイツ語辞典では、グリムやドゥーテンの大辞典が収められている。個人で購入するには高価な辞典類を自由に使えるチャンスを逃す手はないと思う。

#### ②学生証は、他大学の図書館へのパスポート？

皆さんが帰省した時、他大学の図書館を利用することもあるだろう。そんなときは、事前に、本学図書館で、利用申請を出しておくことをお勧めする。大学図書館は、他大学の図書館への入り口にもなっている、というのは、案外知られていない。

他大学の図書館利用をお勧めするのは、他大学の学生の中での勉強が、皆さんの刺激に



きっとなるからだ。私の経験から思うに、大学の図書館とは、大学の気風が色濃く現われる場である（各大学の学生観察も面白い）。ぜひ、いろんな大学の学風を感じてほしい。

また、皆さんの中には、海外の図書館や文書館の利用を考えている人がいるかもしれない。そんなときも、一度、大学図書館で、身分証明について相談されると良いと思う。

私の場合、ミュンヘンに史料調査に出かけた際、この身分証がとても役に立った。貴重な史料が利用できただけではない。窓口のヤナさんという女性と、知り合うことができたのだ。彼女は、ミュンヘン大学で日本学を学んでいて、ドイツ人さえあまり来ない文書館

への日本人の訪問をとても喜んでくれた。そして、昨夏、彼女は、語学留学のついでに、福岡の自宅を訪れてくれた。思いがけず、草の根の国際交流となった。

図書館が、本との出会いの場であることは、言うまでもない。しかし、ここでお話をしたように、他大学の学生からの刺激や、外国での思ひぬ出会いを考えると、人との出会いの場でもあると思う。幸い、本学図書館のスタッフの皆さんは、とても親切に対応して下さる。皆さん、たくさん本と人に出会えるように、積極的に、図書館を利用してもらいたいと願っている。

## 馴文から

### 奥 山 忠 裕

(地域政策学科・講師)

とある先生から、「図書に関する文を書いてほしい。思い出でも何でもいい。」(必死)といわれたので、最近、本を読みながら思ったことを好きに書かせていただく。

大概、学者だの先生だのというと子供のころから難しい本や、やたら教養のある本を読んでいると人に思われがちだが、そんなこともない。まあ、子どもの頃は、親が子供に本を与えるので、みんな同じような本を読んでいるだろう。そして、その多くは、絵本だったのではないだろうか。

では、最初に自分のお小遣いで買った本をみんな覚えているだろうか？この辺りから、人それぞれ、読む本の内容が変わってくるようと思える。いい加減、忘れてもいいと思うのだが、なぜか私が最初に買った本は、『キン肉マン』の11巻である。分らない人は調べるように。この辺までは、本を読むのが楽しかった。絵本だろうが、漫画本だろうが、

ストーリー、キャラクターの動きがよくわかった。その背景も奥行きもイメージできた。心情も「絵」から読みとれた。「絵」を通して、世界観を楽しむことができていた。

そのころ、私の従兄が何やら小難しそうな本を読んでいたのを覚えている。小難しい本のタイトルなど覚える気はなかったが、それを楽しいという従兄は、文から世界観を読みとっていたのだろう。大学生にもなれば、多くの人が本を読み、文から世界観を読みとり、本を楽しむ。「文」の表現が本の世界を魅力あるものとして形作るのである。

さて、学者という職業は、漫画ばかり読んでいては務まるものではない。実務的な、学術的な、様々な専門書を読まなければならない。平たく言えば、苦行のようなものである（なお、この感覚を通り越した先に研究者となる一筋の道が開けることを申し添えておく）。苦行の理由は単純。文が何も世界観を伝えないからである。いわゆるベストセラーベストセラー本にあるようなドラマもない。文のテンポも悪い。専門書ってそういうもんだろ？と言わればそれまでだが、それでも本を読む間くらいは楽しみたいと思う。

だが、研究を続けていくと、不思議と専門書が楽しく読めるときがある。特に、社会科学系の専門書では、必ず社会問題が関係してくることによるのだろう。数式ばかりで書かれた本であっても、基本的には、社会問題—その中で活動する人々のドрамーがある。文だけでは面白くもなく、その「行間」にある背景の知識を持つことが専門書を楽しく読むためのコツなのだろうと思う。自分が読めない文を、駄文と切って捨てることはもったいないことだ。今一度、その本自体の背景、行

間に目を向け、「想像」してみるのもよいのではないだろうか。そこから、様々な知識や楽しみを得ることができるのである…などと、いまさらであるが、考えさせられた。

これは、とある専門誌（一般人向け）のレビュー記事があまりにも意味不明であり、長崎空港から学校までの間に理解する事が出来ず、ここまで読み手を無視した文を書ける人は、ある意味尊敬すべきなのではないか等々、考えていた際にふと思いついたことである。

## 本と私

雪 丸 武 彦

(地域政策学科・講師)

この欄には新任の教員が本とのつながりを書くのが通例となっているらしい。原稿を依頼されて、さあ書こうかとタイトルを書いて筆が（タイピングしているので正確には指が）止まってしまった。まだ30年も生きておらず熱く語れるほど本との長い付き合いはない。本や読書のあり方について蘊蓄を傾けるほど<sup>うんちく</sup>の経験もない。かといって、締め切りは30年後でよいですか、と職員の方に言うほどの勇気もない。仕方がないので本との思い出を思いつくままに書いていきたい。

私の父は読書家で、そのせいか私も幼い頃から本に親しんでいた。父が持つ古い本特有の触感や香りが好きで、小学校や町の図書館に入るときは胸躍らせたものである。

本好きの私が小・中学校、高校の図書委員となったのは当然のなりゆきであった。委員としての活動は細かくは憶えていないが、受付業務の際の暇な時間には本を自由に読めたのと、図書館便りに掲載する推薦図書の選出のために一足早く新しい本を手にとって読む

ことができたのは、まさしく役得で印象に残っている。この時に江戸川乱歩の少年探偵シリーズや、シャーロック・ホームズシリーズ、ルパンシリーズなどの推理・探偵小説を読んだのは今の職業につながっているのかもしれない。

印象に残っていると言えば、高校生のときのポスター作成である。当時の司書さんは大変やる気のある方で、読書週間の広報のために図書委員にポスター作成を命じた。現在の教育学者の立場からするとなんと素晴らしい事業か、と思うのだが、美術的センスが絶望的に欠けている図書委員の私にとっては悪夢であった。日一日と追い込まれていったが、最終的に、芥川龍之介の写真をもとに彼の肖像を「芸術的に」デザインしてどうにか乗り切ることができた。下手と芸術とは紙一重、とはよく言ったもので、なぜか高校で好評を博したようであるが、あのような経験はもうこりごりである。

高校卒業後、私は大学進学のために鹿児島の田舎から福岡に出ることになった。私が学生時代にやりたいと思っていたことは旅行である。推理・探偵小説では殺人事件がしばしば発生する。一体どんな土地なのだろうか、と興味をもっていた。とはいえたが、貧乏学生が新幹線や飛行機を利用する余裕はなく、自然、

青春18切符での長旅となった。この長旅の友は文庫本であった。大学近くの古本屋で何冊か購入し、旅行用バッグに入れて、鈍行列車の中で読み耽った。椎名誠を読んでちょっととした冒険家になったり、村上春樹を読んで妙に感傷を引きするハルキストになったり、榆周平を読んでやけにハードボイルドになったり、と本は自分に色々な「顔」を持たせてくれた。教員として色々な引き出しを持っているのはこの時の経験が大きい。そして、学生時代の「とりあえず鞄に本を入れる」習慣は

消えず、今でも重くなるのを承知で必ず鞄の中には何冊か本を入れて外出するようにしている。研究職に就けたのはこの習慣が大きい。

ここまで書いて気づいたが、どうやら本は随分私の人生を方向づけているようだ。予想外であった。紙幅も尽きてきたので最後に本へのお詫びと感謝で筆を置くこととした。本よ、「長い付き合いはない」と書いて失礼しました。これまでありがとう。そしてこれからもよろしく。

## 私と図書 —本と人との出会いの場—

山 本 裕  
(流通・経営学科・准教授)

30年近くも前の話で恐縮である。当時、九州から東京の大学に通うことになった私の楽しみの一つは、仕送りかバイト代が入ると古本屋めぐりをすることであった。大学がある池袋には数件しか古本屋がなく、もっぱら通ったのは早稲田や神田界隈、そして、高円寺。江戸川橋に下宿していたので歩いて行ける早稲田にはよく通った。「大物」を狙って、行く時はいつもリュックサックを背負っていたような気がする。当時政治学徒だった私は特に焦点が定まらず、南原繁や丸山真男から指導教員であった高畠通敏や神島二郎、栗原彬、他大学から来ていた福田歟一や内山秀雄などの著書を手当たり次第に買っていったようだ。

最近学生たちと清水幾太郎の読書案内を読み進んでいるが、清水によると読書は1) 娯楽書、2) 実用書、3) 教養書に分かれるそうである(『本はどう読むのか』講談社新書)。政治学徒にとって、これらの本は必読書であり実用書と言うことになろうが、一方で、何

の備えもなく九州から出てきた学生には碩学の書物を理解するには遠く及ばず、全てが教養書でもあった。しかし、ひとり下宿にころがって1頁、1頁著者と向き合うのは何物にも代えがたい贊沢な娯楽だったのかもしれない。

ところで、今と最も購買の環境が違うのは外書のようだ。ネットもない時代である。購入の手段は丸善か大学の先生を通じて代理店にでも取り寄せてもらうしかない時代だ。確かゼミとは別に助教授を囲んで3~4名で輪読したロバート・ダールのDilemmas of Pluralist Democracyはハード・カバーで1万円近くした覚えがある。アマゾンで調べると今はペーパー・バックになっており、値段も2506円と手頃だ。最後の頁までしっかり書き込みが



してあるところを見ると、辛抱強い助教授はどうやら最後までつきあってくれたようである。学恩に感謝！

洋書の最大の収穫は高円寺の都丸書房で買ったリースマンのGovernmental Processだ。値段は覚えていない。早稲田大学で圧力団体などの政治過程論を主に研究されていた先生がいたが、この本の訳はまだ出ていなかった。しかし、この大物を自分で読み進んだ覚えはない。

当時指導教員からは、下宿と（大学の）図書館と研究室の三角形から外にでるなと言わされた覚えがある。実際はバイトにも行っていた

たし、草ラグビーも毎週やっていた。しかし、三角形からいくらかはみ出す古本屋めぐりは私にとって学生時代の思い出であり、また同時に、地震のたびにギョギョと揺れた赤レンガの大学図書館などと一緒にとなった、読書にまつわる大切な一部分でもあったのだ。

図書館に毎日のように通えるのはその時以来で、本学に赴任したこの春からになるが、家族的雰囲気がする本学の図書館はたいへん気に入っている。だいたいよく行く回廊（本棚）は決まっているが、今週は知的な未知との遭遇を求めてちがった通路も探索してみたい。

## 就職活動・転職活動と本 山 崎 栄 一

（就職課リーダー）

この大学での勤務も7年目となります。若者と日々接する現場に、大学生の自分を思い出します。

学生時代のディスカウントストアやグリーンショップでのアルバイトが私の社会人としての基礎となりました。観葉植物や鉢花の育て方など商品知識を得るために本を読み漁り、付け焼刃の知識で必死に接客しました。自分が仕入れた商品、鉢植えした商品、薦めた商品を購入していただく喜び、再びお越しいただく喜び、「綺麗に咲いたよ」「ありがとう」の言葉をいただく喜びに、さらに何冊もの本を手に勉強しました。

就職活動は小売業一本でした。まずは業界・企業研究。大学の図書館や書店で『商業界』や『販売革新』（株式会社商業界が刊行している、全国のスーパー、百貨店、専門店等の情報満載月刊誌）を熟読しました。就活の際、志望動機ややりたい仕事を考える参考書になりました（現在も刊行されています。小売業

に興味ある学生は、是非ご一読を）。また、チェーンストア経営の神様とも言われた渥美俊一氏（1926-2010）の幾多の本（「チェーンストアの実務原則シリーズ」、「転換期のチェーンストアシリーズ」（実務教育出版）など）も役に立ちました。チェーンストアの仕組みや仕事について分かったつもりになり、（知ったかぶりをしながら）仲間と熱く語りました。お互いに本から得た知識を語りあうことでき、さらに理解を深め、お蔭様で早々と内定取得しました。ここで得た知識はその後の昇進試験にも活かすことができました。

学生時代に身につけた読書の習慣は、その後の人生を、随分助けてくれました。

私はこれまで3回、転職しました。その転機のたびに読書週間を実施しています。採用試験前には受験する業界関連本を探し、何冊も読んだ上で試験に臨みます。地元大村の図書館では満足できず、お隣の諫早や慣れ親しんだ佐賀、春日の図書館にも通い、読むべき本を探し出しました。試験はいずれも〇。今はCDA（キャリアカウンセラー）としてのスキルレベルを落とさないために、読書週間継続中です。

学生が就職活動で問われるのは経験に対処

する能力です。自分の経験だけでは伝えることが難しいでしょうから、多くの本からヒントを見つけ、自分の言葉にしてほしいと思います。業界や会社に関する知識を深めておくことも大切です。業界の過去、現在の理解が、未来を語る際に役立つはずです。自分の考えを持つために、本を役立ててみましょう。

わざわざ遠くに足を運ばなくても、いつでも立ち寄れる、皆さんの足元にある本学の図書館。就職ガイダンスの際、皆さんに「大学を学費以上に使いましょう！」と声を掛けたことを覚えていますか？図書に限らず、私が

学生の頃にはなかったDVDの充実ぶり（「ビジュアル日本経営史」など）は羨ましい限りです。十二分に活用してください!!



## 館内、学習室の紹介

### ♪ 1階 地域学習室 ↓ 地域の資料が置いてあるよーっ！



学生証を忘れたそのアナタ！ ここなら  
学生証なしで勉強＆資料が探しまあ(・ω・)/

/ 雑誌がいっぱい /



### ♪ 3階 雑誌コーナー ↑

ここではいろんな雑誌が読めるよ(^o^)/  
雑誌を読むのもよし、勉強あるのもよし、  
いろいろ活用しちゃあう！



家に帰っても勉強に集中できない…(T\_O\_T)  
という人は、ここで勉強しちゃあう♪  
ただ、試験前には席が埋まっちゃうので、  
お早めにっつ(・ω・)

### ♪ 4階



ここなら広いテーブルでゼミや友人のみんなと一緒に  
勉強できるね◎！ 自分の世界に入りたいストイックな  
あなたには、奥の個人閲覧室がオススメです✿(笑)  
2階のカウンターで受付してね✿

## 附属図書館からのInformation

### 新任職員のあいさつ



岩間 なつみ  
至らないところも多々あるかと思いますが、皆さんどうぞよろしくお願い致します。

今年度より図書館で勤務することになりました。

大学を卒業したばかりで司書として、社会人としての経験がない分、学生の立場に立って業務に励みたいと考えています。

至らないところも多々

あるかと思いますが、皆さんどうぞよろしく

お願い致します。

### 1F 展示コーナー

影絵作家 藤城清治氏の作品集やステンドグラスの写真集を展示しています。



### 便利なオンラインデータベースのご紹介

※学内者のみ

#### ●ヨミダス歴史館

読売新聞の明治7（1874）年の創刊号から、最新号まで約1,100万件の新聞記事を検索・閲覧できます。全国版だけでなく、地域版（収録開始年は異なる場合があります）も閲覧でき、必要な情報が見つかったら「切り抜きイメージ」として印刷することもできます。

レポート・論文作成や就職活動時の情報収集にぜひ活用してください。

#### <アクセス方法>

佐世保校附属図書館ホームページ→「学内の方へ」  
→「新聞記事検索」→「ヨミダス歴史館」

#### ●判例秘書.JP

国内最大級の情報量を有する法情報のデータベースです。判例延べ約22万件、コメント約4万件、法律雑誌・文献約7千冊に掲載された論文・評釈・解説約20万件、法律雑誌記事索引約33万件の膨大な情報をWebブラウザで参照できます。

#### <アクセス方法>

佐世保校附属図書館内の専用端末からのみ利用可能です。ご利用の際には附属図書館のカウンターにてお申し出ください。

#### ◆附属図書館HPアドレス <http://sun.ac.jp/lib>

●当館は本学学生以外の方でも県内にお住まいの15歳以上の方は利用できます。

●開館時間／平 日：午前8時30分～午後10時まで（学生の休業期間中は午前9時～午後5時まで）

土曜日：午前9時～午後5時まで

休館日：日曜日・祝祭日・開学記念日（6/4）